



あそぼう！自然塾♪報告書

○はじめに

3月11日、東日本大震災は多くの人々に甚大な被害をもたらしました。

そして、その日からさまざまな人々がさまざまな支援を行なってきました。私たちも何かできないかと考え、5月初旬より吉野友人の鈴木光潮氏(登米市学校職員)と連絡を取り、活動計画について検討を始めました。

この活動を企画運営しました際にご協力いただきました皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。支援活動はまだまだ必要だと思います。今後も続けてまいりますので、皆様のご指導ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

1 活動の趣旨

日常生活を取り戻しつつある子どもたちに心から楽しめる活動を提供し、日々の生活の活力となるようにしたいと考える。

・活動内容

複数のワークショップや遊びのブースを設置し、自由に選び参加できるような環境をつくる。

個人で参加できる遊び … 粘土細工、木工オブジェ、バルーンアート など

グループで参加できる遊び … 基地づくり、大きなお絵かき など

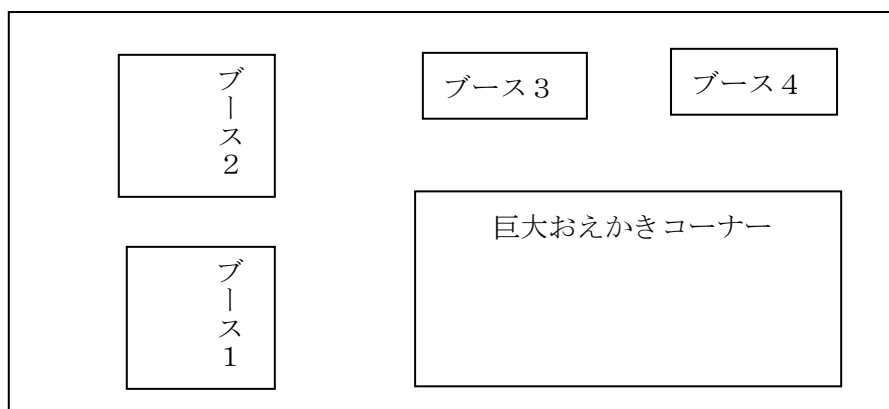
各分野の専門家に協力を呼びかけ、活動への理解と参加を求めていく。

・活動場所

登米市内の廃校小学校(旧善王寺小学校)に仮移転し、同体育館で多数の児童保護者が避難所生活を送っている南三陸町立戸倉小学校を、主たる対象として検討し、また周辺の小学校児童も参加できるように告知する。

・日程表 別項参照

2 会場およびメニュー



- ブース1 土であそぼう … 陶芸家が指導する、粘土での工作
ブース2 すてきな工作 … 竹材を使ったコップやおもちゃづくり
 バルーンアート … 細長い風船で動物やおもちゃづくり
ブース3 お祭り屋台 … カキ氷 ストラックアウト
ブース4 お祭り屋台 … ヨーヨーすくい、射的
・お絵かき … 巨大サイズのお絵かきコーナー(10m×10m)

3 収支 別紙1

4 参加者(順不同・敬称略)

九州組

原水敦 井手美帆子 福満麻美 高山恵理 安里琢也 (upple)

梶原孝明 田中潤一 吉野了嗣(ひらおだい自然塾)

東京組

井村良英 根本真澄

栃木組

斎藤剛郎 他3名(那須高原自然学校)

登米組

鈴木光潮 千葉貴洋 佐藤忠迪

5 行程表

一日目 8月15日

- 13:00 平尾台 集合
荷物搬入、出発準備
- 16:30 平尾台 発
九州自動車道→関西→北陸道経由



二日目 8月16日

- 磐越自動車道→東北道経由
- 13:30 宮城県 着
旧戸倉小跡地(南三陸町)見学
- 18:30 旧善王寺小(現戸倉小中学校)テント設置
- 20:30 風呂・晩御飯・ミーティング・就寝



三日目 8月17日

- あそぼう自然塾@戸倉小中学校
- 7:00 準備(竹とり、テント設営、屋台、セッティング)
- 10:00 あそぼう自然塾 開催
午前中のメニュー
工作教室(粘土あそび、竹のおもちゃづくり)
縁日屋台(ヨーヨー釣り、水鉄砲射的、かき氷)
お絵かき(10m 四方の巨大な布にて)
- 13:00 午後のメニュー
工作教室(竹のおもちゃづくり)、
バルーンアート、
アトラクション(ストラックアウト)、
縁日屋台(ヨーヨー釣り、水鉄砲射的、かき氷)
お絵かき
- 15:30 片づけ、撤去、掃除、移動
- 19:00 風呂・晩御飯・ミーティング・就寝



四日目 8月18日

あそぼう自然塾@米岡小学校

7:00 準備(竹とり、屋台、セッティング)

10:00 あそぼう自然塾 開催

工作教室(粘土あそび、竹のおもちゃづくり)

縁日屋台(ヨーヨー釣り、水鉄砲射的、かき氷)

バルーンアート

13:00 工作教室(粘土あそび、竹のおもちゃづくり)

縁日屋台(ヨーヨー釣り、水鉄砲射的、かき氷)

バルーンアート

アトラクション(ストラックアウト、サッカー)

お絵かき 披露

15:30 片づけ、撤去、掃除、移動

19:00 風呂・晩御飯・ミーティング

21:30 RQ 本部 ミーティング(施設説明、打ち合わせ)

23:00 消灯・就寝



五日目 8月19日

8:30 ミーティング、出発

9:00 気仙沼市小泉地区 着 作業開始

作業内容;畑であった土地のがれき撤去、分別

12:00 休憩、昼ご飯

13:30 作業再開

15:30 作業終了

16:30 入浴(南三陸町・ホテル観洋) 現地出発



六日目 8月20日

13:00 平尾台 着

荷物おろし・掃除・片づけ・ミーティング(バス返却)

16:00 解散



6 現地での聞き取り 子どもの様子、現地の人々の様子

元気いっぱい他の地域と変わらない、むしろ田舎なので都会の子よりも大きな声でのびのびとしている印象を受けました。しかし、震災で起こったことはあまり口にしないということでそれはそうだなと感じました。

ちょっと不安定な感じかな、と思わせる子もいました。

希望参加だったので余計かもしれませんが、もくもくと土に向かう子、フーセンを作る子、竹細工をする子、が目に留まりました。ストラックアウト(ボール当て)も、学年に応じて距離を変えましたが、真剣に取り組んでいる眼にとっても好感をもちました。

戸倉地区の人たちは数箇所の仮設、避難所に分散して生活しているので、学校でも現在の状況が分かりかねる状況だった。私たちが到着した前日に戸倉小中の体育館も、避難所としての役割を終えたところだった。

仮設住宅の供給が進み、避難所の多くが閉鎖されていたが、実際に仮設住宅に行ってみると、決して元の生活に戻ったわけではないことを実感させられた。近所付き合いや、買い物、娯楽など、本当に生活の基本の部分で不足しているものも多く見受けられた。

遠方ナンバーの私たちの車を見かけたお年寄りが「遠くからご苦労様です」と声をかけてくださった。

戸倉小のPTAの方とお話をしたが、やっと仮設住宅が決まったところで慌しい様子だった。本来は盆前後は引越などしてはいけないのだが、そうも言ってもらえない、と話しておられた。

九州ではまず聞くことのない登米市、という地名。津波の来ない内陸のここでも震災の被害があちこちで見られた。陥没して応急処置のままの道路。基礎と地盤の隙間。地震におびえる子どもたち。放射能の見えない恐怖も確実に到達していた。

「まあずすこつつづがんばっぺす！」と書かれたTシャツを戸倉小の校長先生から頂いた。今回特にご協力いただいた教頭先生を初め、みなさん淡々と、しかししっかりと復興に向けて働いていらっしゃる姿が印象的でもあり、頼もし

くもあつた。

7 スタッフの感想

震災から半年たち、自分らの旅から早一ヶ月が経とうとしている。「宮城に知り合いが居るから間に入ってもらってむこうで自然塾みたいに子どもたちと遊ばないか？」そんな言葉から始まった、宮城への旅計画。実際に行って何が出来る？「そんなことはわからない！出来る事なんて何もね～よ！けど行きたいんだ！」「変な奴らが何かやってる！でもいいじゃんか」そんなトムという言葉に背中を押されその場で「行く」と答えた。なぜなら自分も実際に行って見てみたい場所があった。それは震災直後のニュースで見た、防災放送と担当の女性（遠藤 未希さん）の話。当時色んな震災のニュースが飛び交う中なぜかこの話だけが頭から離れずにいた。

「どこの町の話だったか解らないけど、その町が見てみたい」言葉には出さなかったがそれが自分の旅に出る理由になった。

実際に現地に到着して今回一緒に遊ぶ子どもたちの通っていた小学校がある海沿いの町南三陸町戸倉小学校に現地の鈴木さんに案内していただきながら向かう事になった。地震・そして津波の被害。ニュースや新聞・またはネットで想像はして来た。が、その想像が遥か遠くに飛ばされるぐらいの衝撃があった。現実があまりに非現実的でどう目の前に広がる光景を理解すればいいのか解らなかった。

「自分に起きた事じゃなくて、本当に良かった・・・」

目的地に着いて一番に頭に浮かんだ言葉が正直にこれだった。そんな中バスは戸倉小学校に到着し、メンバー全員バスから降り実際に自分の足で歩いてみた。さっき浮かんだ言葉を恥じたのか悔しいとも悲しいとも違った感情でどう言葉で伝えればいいのか解らないが勝手に涙が止まらないくらい流れ出し「ごめん、ごめんなさい」と思わずつぶやいていた。そしてトムに防災放送と女性の話をしたすると「その町が、ここ南三陸町だよ」そうか・・・

ここが必死に命がけで守ろうとした町なのか・・・これが自分の旅の始まりだった。それから必死に「ごめん、ごめんなさい」とつぶやきながらシャッターを押し続けた。どう写真を使えるかは解らないけど伝えなきゃ・・・何が出来るのか、やれるのか解らないまま来てしまったがここに来てやっと自分にもできる事が見付きそうながした。

滞在2日目戸倉小学校（今は内陸の善王寺小学校に学校自体が移動してきている）の子どもたちを中心に、近郊の小学生達と、スタッフ各々が持っている特技を生かして遊んだ！10メートル×8メートルの巨大アート（ペンキアート）、粘土遊び、竹で造る器、バルーンアート、ミニ縁日。どれもがスタッフみんなの手作りのイベントだった。本気で遊んだ笑った。

ただイベント初日に起きた余震・・・子どもらも保護者も慣れているとは言ってもそれまで「ワイワイ」騒いでたのに急に静かになり真顔になっていた。時間的にほんの少しだったが立て続けに2回そんな中子どもが心配そうに「お父さん揺れたね・・・」お父さんは「家に居るよりはここの方が安全だ」冷静なお父さんの言葉と表情が自分にとっては怖か

った・・・

ただそれ以外は子どもはどこに行っても子どもでやんちゃもするし、悪戯ももちろんの事大人を困らせてた。だが反対にそんな子どもをみて安心したのも事実笑ったのも事実。

二日目の学校も内陸にある米岡小学校だったのだが校舎の周りは（基礎の入ってない所）液状化現象で地盤が最低でも20センチは下がりいたるところに段差ができて穴も沢山空いていた。当たり前で遊んでいたのであろう遊具もほとんどが地震の影響で使えなく体育館も耐震検査にひっかかり使用できなくなっていた。「内陸だから安全」そう思ってた・・・

ニュースなんかじゃ取り上げられてない部分実際は内陸も危険が沢山だった。それでもやはり子どもたち土地柄なのか、もともと持っているものなのか震災後の影響なのか、子どもたち同士の連携というか仲間意識がすごく好かった。年上年下・通う学校は関係なく年上は年下をしっかりとフォローし年下は年上をしっかりとしたうそんな場面をいくつも目にした地元じゃあまり見ない光景だったので素敵に感じた。この子達なら助け合いや、人との繋がりをフルに活かせるんじゃないか？と思えた。

最終日、気仙沼（小泉地区）でのボランティア。初日の南三陸町同様に現実なのだが非現実・・・海から広がる街並みは家々の基礎だけが残し、まるで海底遺跡が出て来たようにも見える。津波で押し流されそこにあった当たり前が全て消えていた。作業をやった畑だった土地も、表面的には更地になってる様でもスコップで掘ればたくさん物が出てくる。そしてここには間違いなく当たり前の人やペット達の生活があったんだと実感した。そんななか震度4位の地震が起り津波注意報まで発令された。海沿いでの作業だったので高台に一斉に非難した。津波注意報が解除されるまでそこに居た人たちは皆、海を心配そうに見つめていた。20～30分で解除されたが、少しだけでも津波に対する恐怖を感じられた貴重な体験だった。

実際地元での現実に戻り（今現在）今回行ったメンバーとも顔を合わせ話す機会があった。そのなかの女性メンバーが現地の子どもの話を話した。

縁日用で色々景品を持って行ってたイベント最終日は一日雨だったりとかで実際想像していたよりも子どもたちの来場も少なくかなりの余りが出ていた。

そんななか子どもが「お姉ちゃん、今日来れなかった友達にお土産で持っていてもいい？」と聞いてきたらしい。

「いいよっ！」そこから子どもは考え出したらしく「けどね、どこの仮設に居るのか解らないよ」

実際行ったのは夏休み夏休みといえば宿題なんかほったらかして友達と遊びまくるのが一つの楽しみと思うが、現実それも出来ていなかったのかと考えると胸が苦しくなった。実際はあまった景品は学校に来れなかった子ども達の方で置いてきたのだがもらう子もやはり友人から「はいっ！お土産」って受け取る方が嬉しかろうに・・・

そんな風にこっちに戻って来てからも海を見たり、無料引き取りの廃品回収なんかで積み重なったものを見たり、重機をみたり、更地を見たり・・・色々な事から実際見て来た光景と重なる場面がある。

その度に「また来年も」と思う。実際今回は初めてで自分が担当した粘土遊びも最終的に持って帰る子はそのままの状態を持って帰っていたのできっと持って帰る間に壊れてしまうだろうとか色々失敗というか次回に活かせる事が少しだけ見えて来た。

どこまで理想を可能にできるかは解らないが次回までに自分が頑張る部分だと思った。

「頑張れ東北」じゃなく、頑張んなきゃいけないのは俺たちだ！あの現実で必死に生活している方々が沢山いるそれだけでも充分頑張ってるやろ！頑張ってる人間に「がんばれ！」は相当きつい言葉だよ。だから俺達の言葉は「あそぼう！」「またな！」そんな風に自分達の行動は動き出したばかり！また来年！

そしてもう一つ自分自身が今回の旅でやろうと思った事、このブログや自分の店、展示会なんかで募金を募ったり売り上げの何パーセントは・・・なんて事はやらない！！そんなことはちゃんとした行政や大手の企業にまかせる！俺がやってもうさんくさいだけだから！だけど・・・展示会をやるたびに今回撮影した写真たちも一緒に展示しようと思う。そうやって見たものを伝える事が俺にもできる事かなと思う。(梶原)

百聞は一見にしかずでした。また来年も行きたいです。今度は石ノ森章太郎記念館にも行ってみたいです。

まず伝えることが必要と思いました。しかし帰ってきて言葉にするのが難しいなあと感じましたので、デジタルストーリーテリングの手法を使って伝えてみようと考えております。(井村)

冗談で子どもが「津波が来る」「地震がくる」と言う場面が、遊んでいる最中にあった。余震があったとき、一番やんちゃな男の子とふたりでいたが、「また地震か...」と下をむいてつぶやいていた。表情は明らかに曇っていた。

何かを「作る」活動は、来年もしたい。

色んなものを失った経験をしたからこそ、意味がある活動じゃないかなと感じた。

「え!?福岡から来たの!？」とびっくりする子がけっこういた。

何か福岡ならではの遊びができたら良いのでは？

...方言の違いを楽しんでた子も多かったので、方言の意味当てゲームとか？(井手)

今回の自分自身の中の目的の1つに、自分の五感で震災を感じる事があった。しかし、実際にその地には立ったものの、震災の本当の意味での被害を上手く感じ取るには至らなかった。それは、被災地の方々の心の奥底に眠るものにはふれることも、ふれる機会さえも持てなかったからだ。もっとじっくりとかかわっていかなくてはいけない。そう感じた。現地滞在期間はたったの4日間。「何かできる」とは思っていなかったものの、本当に何もできなかった。3月11日より半年が過ぎ、遠く離れた九州では、日常から東日本大震災が過去の出来事として消え去っている気さえもする。復興への月日は長い。大規模な支援がこれからも必要不可欠である。現地に立ったひとりの国民として、身近な人に伝えていくことを次の「今、私にできること」として全力で行動し、5年、10年と「かかわり」を

続けていこうと思う。(原水)

8 企画の達成度の検証

今回の企画は震災直後の混乱期を避け準備したにもかかわらず、予測と異なる事態が多々発生し、変更や修正、中止せざるを得ない点があった。

その中で戸倉小の當麻教頭先生、米岡小の鈴木光潮氏には特に多大なご協力を頂き、実施に漕ぎ着けることができた。深く御礼申し上げます。

開催場所については、戸倉小と早い時期から決めていたが、中学校との報交換の不備により1日だけの開催になった。結果2日目は米岡小でできることになり、多くの地域と参加者を対象にできたことは好都合だったが、十分な告知ができず参加者数が伸び悩んだ。

出店ブースについては、ワークショップ、縁日、各部門の数は妥当で、対応も十分であった。大きなお絵かきは天候の都合により1日だけだったが、当初の目的はおおよそ達成できたと思う。

子どもを中心に、地域の住民との交流を図ることも目標としていたが、学校と仮設住宅の距離もあり、また仮設住宅入居後まだ日にちが浅いこともあって、あまり接触を図ることはできなかった。

9 今後の計画、展望

今年の反省を踏まえ、来年度に向けて、9月よりミーティングを定期的に行なう。

基本的な構成は昨年どおりに、場所の選定、企画内容の検討、スタッフの選考などを進めていく。

当初予定していた向こう5年間の活動为目标に、企画運営の拡大・安定化を図る。



別紙1

予算

収入		
項目	金額	備考
寄付	200,000	
会計	110,000	自然塾会計
計	310,000	
支出		
項目	予算	備考
交通費	110,000	高速代 36000×2 燃料費 40000
備品費	50,000	イベント用機材等 ※1
材料費	100,000	各ワークショップ用 ※2
食料費	0	参加者自己負担
滞在費	0	参加者自己負担(テント泊)
その他	50,000	通信費、事前広告用印刷物など
計	310,000	

決算

収入		
項目	金額	備考
寄付	130,000	
会計	22,000	自然塾会計
計	152,000	
支出		
項目	金額	備考
交通費	64,142	高速代0 燃料費
備品費	20,000	イベント用機材等
材料費	58,000	各ワークショップ用
食料費	0	参加者自己負担
滞在費	0	参加者自己負担
その他	10,000	通信費、事前広告用印刷物など
計	152,000	